

井筒屋だより

第四十五号
令和六年
七月号

8月3、4日は八坂祇園祭

井筒屋で楽しもう!

今年も、八坂神社の祇園祭りが、8月3日と4日に行われます。

笠間八坂神社に鎮座する牛頭天王が、神輿で石井の天王塚まで渡御するこの祭りは、昔から笠間の夏の御神事です。

8月3日は前日祭で、午前11時に八坂神社に各町内の子ども神輿が集まり、「みたまうつし」の神事が行われ、午後8時から社殿で「本神輿遷宮祭」が開かれます。



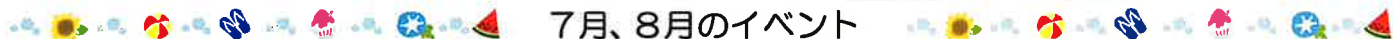
井筒屋前で神輿が右折します



稲荷ばやし保存会が盛り上げます

8月4日は、「神幸大祭」が執り行われ、昔から「網天(あみてん)」とよばれる神輿が八坂神社を出発し、三所神社を参拝してから、大町を通り、井筒屋の前で右折、石井神社から天王塚へ向かいまです。午後9時30分までに八坂神社に戻ります。

両日とも午後5時30分から門前通りは歩行者天国となり、町内の神輿や笠間稲荷ばやし保存会の山車が出ます。井筒屋は、絶好の「祭り映え」ポイント。井筒屋から、祇園祭を楽しんでください。



7月、8月のイベント

万葉亭小太郎の
井筒屋朝の会

日 時：7月14日(日)午前10時30分(開場10時)
出 演：万葉亭小太郎(落語)

日曜の朝のひとつ、万葉亭小太郎が落語をたっぷりお届けします。

木戸銭：500円

第2回 民話がたり
～ひとつきいてくだされ～

日 時：7月21日(日)午前11時～11時30分
出 演：笠間の民話を語る会

「弥五郎の天王様」「稲田草庵」「竜神様の掛軸」など、笠間の民話を語ります

入場料：無料

怪談を聴く vol.4
音楽と落語で語り奏でる不気味な一夜

日 時：7月20日(土)午後6時(開場5時30分)
出 演：石引康子(琵琶) 小林萌里(ピアノ)

万葉亭小太郎(落語)

音楽と落語のコラボで、怖い話を披露します。「孫帰る」「一眼国」「葵上」他。



入場料：3000円(予約) 3500円(当日)

井筒屋歴史講座
「筑波海軍航空隊と神風特別攻撃」

日 時：8月6日(火)午前10時～11時30分
(受付9時30分から)

講 師：南秀利(笠間市文化財保護審議会会長)

筑波海軍航空隊と神風特別攻撃について解説します

参加費：300円

※資料準備のため、必ずご予約願います。



かさま歴史交流館井筒屋 笠間市笠間 987 電話 0296-71-8118

開館時間 午前9時～午後9時 月曜日休館(月曜日が祝日のときは火曜日が休館となります)

～このお便りでは、井筒屋の日々の様子やイベントの開催予定等をお知らせしています～



歴史こらむ

祇園祭は牛頭天王の里帰り

今から770年前の鎌倉時代の建長6(1254)年、笠間城を築城した笠間時朝が、下野国茂木小貫郷の天王森(てんのうもり)に鎮座していた牛頭天王(ごずてんのう)社を、笠間領内の石井村にある石井原天王塚に遷宮した。

その後、城下町の整備のために、石井村の住民を大町に移住させ、牛頭天王も大町八坂神社に移した。

牛頭天王とは、悪疫を防ぐ神様。そこで、病氣平癒と領内の繁栄を願い、八坂神社から石井の天王塚まで、牛頭天王が



昭和初期まで使われていた神輿

井筒屋1階にあるパネル展示のコーナーに、昭和初期の神輿渡御の様子が掲示されている。井筒屋旅館の前を神輿を筆頭に長い行列が続いている。かつては3日だった、現在は2日制。時代とともに変遷はあったが、今でも笠間の夏を彩る行事であることに違いない。笠間の繁栄をいつまでも牛頭天王様に祈りたい。(尚)

夏の思い出を井筒屋で作ろう

前号で一部紹介したように、夏休みに「井筒屋こどもワークショップ」を開催します。その詳細が決まりました。宿題として提出できる作品が、楽しみながら作れますので、ぜひ、ご参加ください。

＜竹トンボをつくろう＞

日時：7月30日(火) 午前10時～12時
講師：原田一昭(筑波山地域ジオパーク認定ジオガイド)
材料費：500円

＜夏休み絵画教室＞

日時：8月4日(日) 午前10時～午後3時
講師：関口広子 照沼めぐみ
受講料：3000円。

＜小鳥笛バードコールをつくろう＞

日時：8月25日(土) 午前10時～12時
講師：山田博己(筑波山地域ジオパーク認定ジオガイド)
材料費：500円

対象は全て小学生。定員やお知らせ事項もありますので、必ず、電話予約をしてください。

歌と語りを満喫

【井筒屋ニュース】



「あ～ちゃん＆ボニータの歌と語りのショータイム!!」が開かれ、中澤敦子さんと山口由美さんによる歌や語りが披露されました。



「万葉亭小太郎の井筒屋の夜会～夏に至る夕べの会～」が開かれ、落語のほか、朗読と紙芝居を楽しみました。

落語と朗読 紙芝居
を楽しむ

【後記】

夕方5時に笠間のまちに響くメロディは「明日があるさ」。言わずと知れた坂本九が歌った曲です。私たち(50代)から下の年代は、ウルフルズ、またはダウンタウンのハマちゃんをはじめとする吉本の芸人さんの曲を思い出します。他にも、数多くのアーティストがカバーしていて、若い人の中には、CMソングだと思っている人もいます。改めて、九ちゃんの歌を聞いてみました。今の時代にも通じる歌詞とメロディーで、九ちゃんの歌声は、とても爽やかな気持ちになれます。だからこそ、世代を超えた人々の記憶に残るのでしょう。九ちゃんの偉大さを再確認しました。(雄)